

2018年(平成30年)6月26日(火)

三島駅南口

再び住民監査請求

市民の会「市転売なら差益」

三島市土地開発公社が三島駅南口西街区の土地3141平方メートルを東急電鉄へ売却した価格は安すぎるとして、「三島駅南口の整備を考える市民の会」の渡辺豊博代表(68)が25日、同市監査委員に住民監査請求をした。この土地では既にホテル建設が始まっている。問題の土地売却を巡っては、渡辺代表は今年1月にも住民監査請求をし、棄却されている。前回の請求は、市長の公社に対する売却



住民監査請求の書類を提出する渡辺豊博代表(右)＝三島市役所で

の依頼は違法無効▽売却場改修などは不当な却に伴い市が行った駐便宜供与」との論拠

だった。今回は、「土地を市が買い取り転売すれば得られたはずの差益相当額の損害を、市長は

市に与えた」と主張。差益相当額約2億7301万円の補填を市長に請求するよう市に求めている。土地は昨年9月に約4億168万円(1平方メートルあたり約12万8000円)で売却された。

また前回は「価格は公社による不動産鑑定評価に基づいている」として棄却されたが、今回は「建ぺい率・容積率を限度より低い数値で試算した収支に基づき評価額を導いている」などと鑑定自体が不当だとしている。渡辺代表は「価格はあまりに安い。なぜ市は改めて鑑定をしなかったのか」と疑問視し、「請求が認められなかった場合は住民訴訟も検討する」としている。一方、市は「土地売却は適正に処理されている」とのコメントを発表した。

【石川宏】